

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 医薬品の本質に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

医薬品は、人の疾病の (a)、治療若しくは (b) に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品であり、その (c) が認められたものである。

下欄

	a	b	c
1	診断	予防	唯一性
2	診断	予防	有用性
3	研究	検査	有用性
4	診断	検査	唯一性
5	研究	予防	有用性

問2 医薬品の副作用に関する次の記述について、適切であるものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 許可医薬品を不適正に使用した場合に現れた有害な反応は、副作用として扱われる。
- b 副作用は、眠気や口渇等の比較的良好に見られるものから、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで様々である。
- c 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりではないので、継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても定期的に検診を受けるように、医薬品の販売等に従事する専門家から促すことも重要である。
- d 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべて解明されているため、十分注意して適正に使用された場合では副作用は起こらない。

下欄

- 1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問3 医薬品の相互作用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 相互作用は、医薬品が薬理作用をもたらす部位でのみ起こる。
- b 一般用医薬品の禁煙補助剤（咀嚼剤）とアドレナリン作動成分が配合された医薬品の併用により、交感神経系を興奮させる作用が抑制されるおそれがある。
- c 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせで含んでいることが多く、相互作用のリスクを減らす観点から、なるべくその人の症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- d 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問4 次の医薬品成分と食品の組み合わせのうち、医薬品の作用が減弱するおそれのある組み合わせを1つ選びなさい。

(医薬品成分)		(食品)
1 アリルイソプロピルアセチル尿素	—	酒
2 カフェイン	—	ウーロン茶
3 ヨウ素（含嗽薬）	—	レモン汁
4 酸化マグネシウム	—	センナ
5 サンソウニン	—	セントジョーンズワート

問5 登録販売者の対応に関する次の記述のうち、適切であるものを1つ選びなさい。

- 1 女性が、使用者の妊娠の有無を確認しておくべき医薬品を購入しようとしたので、周囲にたくさん他の購入者がいるレジにおいて、大きな声で何度も妊娠の有無を確認した。
- 2 青少年が、習慣性・依存性のある成分を含んだ医薬品を大量に購入したが、売上を重視して、事情を尋ねたり販売を差し控えるなどの対応はしなかった。
- 3 購入者から、一定期間一般用医薬品を使用しても症状が改善しないと相談があったので、医療機関の受診を勧めた。
- 4 購入者から、成人専用の薬を小児に飲ませたいとの相談があったので、小児だから大人用の半分位の量を飲めばよいとだけ助言した。

問6 アレルギーに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 通常の免疫反応の場合、炎症やそれに伴って発生する痛み、発熱等は起こらず、免疫機構が過敏に反応した場合にそのような症状が引き起こされる。
- b 医薬品によるアレルギーは内服薬でのみ引き起こされ、外用薬で引き起こされることはない。
- c 医薬品によるアレルギーは、その医薬品の薬理作用と関係して起こる。
- d アレルギーには体質的・遺伝的な要素もあり、アレルギーを起こしやすい体質の人や、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

問7 医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a 医薬品の使用は、保健衛生上のリスクを伴うものであり、科学的な根拠に基づ
く適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。
- b 医薬品は、市販後にも、医学・薬学の新たな知見、使用成績等に基づき、その
有効性、安全性の確認が行われる。
- c 医薬品は、製造販売業者による製品回収等の措置がなされることもあるので、
医薬品の販売を行う者は、日頃から製造販売業者からの情報に留意しておくこと
が重要である。
- d 医薬品は、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させるものであり、人体に
とって異物ではない。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問8 高齢者への医薬品の使用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般に高齢者は、加齢によって腎臓や肝臓の機能が低下している場合であっても、副作用を生じるリスクは若年時と比べて変化しない。
- b 医薬品の副作用で口渇を生じていると、誤嚥を誘発しやすい。
- c 医薬品の使用上の注意において、「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。
- d 生理機能が衰えている高齢者では、医薬品が効きにくくなっているため、最大用量から様子を見ながら使用し始め、徐々に量を減らしていくのが望ましい。

下欄

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問9 小児への医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の使用上の注意等において、幼児のおおよその目安は5歳未満である。
- b 肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強くなりすぎたり、副作用がより強く出ることがある。
- c 生後3ヶ月未満の乳児には、漢方処方製剤は使用しないこととされている。
- d 一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品を使用した後は、保護者等が乳幼児の状態を観察することが重要である。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問 10 牛乳にアレルギーがある人が避けるべき成分を1つ選びなさい。

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| 1 黄色4号 | 2 カゼイン | 3 亜硫酸ナトリウム |
| 4 合成ヒドロタルサイト | 5 次没食子酸ビスマス | |

問 11 妊婦・授乳婦への医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の成分の胎児への移行は、胎盤関門によって完全に防がれている。
- b 妊婦が、ビタミンA含有製剤を出産前3ヶ月から出産までの期間に、通常の使用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を引き起こす危険性が高まる。
- c 浣腸薬は一般に、妊婦または妊娠していると思われる女性では使用を避けることが望ましい。
- d 授乳婦が、ロートエキスの配合された内服薬を使用すると、母乳を介して乳児に頻脈を起こすおそれがある。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問 12 プラセボ効果に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a 医薬品を使用したとき、薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果
という。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましい効果のみである。
- c プラセボ効果は、客観的に測定可能な変化として現れることもある。
- d 一度現れたプラセボ効果は、次回使用時も確実に現れるため、それを目的に医
薬品が使用されることは望ましい。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 13 一般用医薬品承認審査合理化等検討会中間報告書「セルフメディケーションに
おける一般用医薬品のあり方について」(平成14年11月)をふまえ、次の字
句について、一般用医薬品の役割として適切なものを「正」、適切でないものを
「誤」として、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 健康状態の自己検査
- b 健康の維持・増進
- c 衛生害虫の防除
- d 生活習慣病の治療

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	正	正	誤

問14 医薬品を使用した後に身体に現れる変化に関する次の記述のうち、副作用を疑うべき症状の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a サリチル酸ジフェンヒドラミンを含有する乗物酔い防止薬を使用すると、眠気を感じた。
- b 塩酸メトキシフェナミンを含有する鎮咳去痰薬を使用すると、気管支が拡張した。
- c 塩酸ロペラミドを含有する止瀉薬を使用すると、腸管の運動が低下した。
- d 臭化メチルベナクチジウムを含有する胃腸鎮痛鎮痙薬を使用すると、尿が出にくくなった。

下欄

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問15 医薬品の品質に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品が保管・陳列される場所は、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意しなければならない。
- b 医薬品に配合されている成分には、有効成分のほかに添加物成分があるが、添加物成分は高温、多湿、光等によって劣化を起こさない。
- c 一般用医薬品は、家庭の常備薬として購入されることも多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売することが重要である。
- d 内用液剤は、一度開封された場合でも使用期限まで品質が保証されている。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問16 塩酸プソイドエフェドリン（鼻炎用内服薬）の使用に際し、使用しないこととされている基礎疾患の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 心臓病
- b 胃潰瘍
- c 全身性エリテマトーデス
- d 甲状腺機能障害

下欄

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問17 解熱鎮痛薬を購入しようとする者から相談を受けた場合の、登録販売者の対応に関する次の記述のうち、適切でないものを1つ選びなさい。

- 1 使用者の年齢を確認したところ、8歳とのことだったので、解熱鎮痛成分としてアセトアミノフェンのみが配合されている製品の選択をすすめた。
- 2 基礎疾患を確認したところ、肝臓病で通院中という回答であったので、使用する前に治療を行っている医師に相談するようにと助言した。
- 3 妊婦であったため出産予定日を確認したところ、8週間後とのことだったので、アスピリンが配合されている製品は避けるように、また、その他の製品についても使用する前には担当医師に相談するようにと助言した。
- 4 既往歴を確認したところ、胃・十二指腸潰瘍にかかったことがあるとのことだったので、解熱鎮痛成分としてイブプロフェンのみを含む製品なら問題なく使用できると助言した。

問 18 セルフメディケーションに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a WHOによれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。
- b セルフメディケーションの主役は、一般用医薬品の販売に従事する専門家である。
- c 一般用医薬品の利用のほか、食事と栄養のバランス、睡眠・休養、運動、禁煙等の生活習慣の改善を含めた健康維持・増進全般についてセルフメディケーションという場合もある。
- d 一般用医薬品の販売に従事する専門家が、購入者に対して科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行うことは、セルフメディケーションの支援となる。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

問 19 薬害に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a スモン訴訟をきっかけとして、WHO加盟国を中心に、市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。
- b 医薬品副作用被害救済制度は、1979年にサリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として創設された。
- c HIV訴訟の和解を踏まえ、製薬企業に対し、従来の医薬品の副作用報告に加えて感染症報告が義務付けられた。
- d 生物由来の医薬品等によるHIVやCJDの感染被害が多発したことから、2002年に行われた薬事法改正に伴い、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による生物由来製品による感染等被害救済制度の創設等がなされた。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問 20 サリドマイドに関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

サリドマイドは (a) 成分として承認された ((b) にも配合された) が、副作用として (c) を妨げる作用があった。妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生した。

下欄

	a	b	c
1	鎮咳	かぜ薬	血管収縮
2	催眠鎮静	かぜ薬	血管拡張
3	催眠鎮静	胃腸薬	血管新生
4	鎮咳	胃腸薬	血管新生
5	催眠鎮静	胃腸薬	血管収縮

主な医薬品とその作用

問 21 かぜ薬に含まれる成分とその配合目的について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

(成 分)	(配 合 目 的)
a 塩酸エチルシステイン	— くしゃみや鼻汁を抑える
b 塩酸クロペラスチン	— 発熱を鎮め痛みを和らげる
c ノスカピン	— 咳を抑える
d グアヤコールスルホン酸カリウム	— 痰の切れを良くする

下欄

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 22 グリチルリチン酸に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 グリチルリチン酸を含む代表的な生薬成分であるダイオウは、抗炎症作用を期待して用いられる。
- 2 化学構造がステロイド性抗炎症成分と類似していることにより、抗炎症作用を示すと考えられている。
- 3 医薬品では1日摂取量がグリチルリチン酸として200mgを超えないように用量が定められている。
- 4 大量に摂取すると偽アルドステロン症を生じるリスクが高まる。

問 23 次の成分について、依存性があることに留意する必要があるものを「正」、留意する必要がないものを「誤」として、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ブロムワレリル尿素
- b リン酸ジヒドロコデイン
- c 塩酸プソイドエフェドリン
- d マオウ

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	誤

問 24 禁煙補助剤（咀嚼剤）に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。なお、2つの（ b ）には同じ字句が入ります。

禁煙補助剤（咀嚼剤）は、ニコチン置換療法に使用される医薬品であり、（ a ）とされている。有効成分であるニコチンは、口腔内が（ b ）になると吸収が低下するため、口腔内を（ b ）にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避けることとされている。なお、禁煙補助剤（咀嚼剤）は長期間に渡って使用されるべきものではなく、使用期間は（ c ）を目途とすることとされている。

下欄

	a	b	c
1	喫煙量を徐々に減らしながら使用すること	酸性	3ヶ月
2	喫煙量を徐々に減らしながら使用すること	酸性	3週間
3	喫煙を完全に止めたうえ使用すること	酸性	3ヶ月
4	喫煙量を徐々に減らしながら使用すること	アルカリ性	3週間
5	喫煙を完全に止めたうえ使用すること	アルカリ性	3ヶ月

問25 次の生薬のうち、かぜ薬として用いられる漢方処方成分である葛根湯、麻黄湯、小柴胡湯、柴胡桂枝湯、小青竜湯、桂枝湯、香蘇散、麦門冬湯に共通して含まれる生薬を1つ選びなさい。

- 1 マオウ
- 2 ダイオウ
- 3 ニンジン
- 4 カンゾウ
- 5 シャクヤク

問26 かぜ薬に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 かぜに対する相乗効果を期待して、かぜ薬の服用期間中に、民間療法でもあるアルコールの摂取を行うことは望ましい。
- 2 かぜの時に消耗しやすいビタミンを補給することを目的として、ベンフォチアミンやビスベンチアミン等が配合されている場合がある。
- 3 かぜ薬とは、かぜの原因菌や原因ウイルスの増殖を抑えることを目的として使用される医薬品の総称であり、総合感冒薬ともいう。
- 4 エテンザミドについては、小児へはいかなる場合も使用しないことになっている。

問 27 解熱鎮痛成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a アスピリン及びサザピリンは、共にサリチル酸系解熱鎮痛成分である。
- b アセトアミノフェンは、他の解熱鎮痛成分と比較して胃腸障害が起りやすい
ため、坐薬としての使用が一般的である。
- c サリチル酸系解熱鎮痛成分は、ライ症候群との関連性が示唆されている。
- d 近年、アスピリンが配合された血栓予防薬が一般用医薬品として市販されてい
る。

下欄

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 28 解熱鎮痛成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a エテンザミドについては、他の解熱鎮痛成分と比べて、痛みの伝わりを抑える
働きが優位であるとされている。
- b イブプロフェンについては、一般用医薬品では小児向けの製品はない。
- c アセトアミノフェンには解熱鎮痛作用の他、抗炎症作用が期待されている。
- d イソプロピルアンチピリンは非ピリン系の解熱鎮痛成分である。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 29 解熱鎮痛薬に配合される生薬成分とその配合目的の関係について、誤っているものを1つ選びなさい。

- | (生薬成分) | (配 合 目 的) |
|----------|---|
| 1 ジリュウ | — 動物性生薬で、古くから解熱鎮痛作用を有する生薬による胃腸への負担を和らげることを目的として用いられている。 |
| 2 シャクヤク | — 鎮痛鎮痙作用及び鎮静作用を示し、内臓痛にも用いられる。 |
| 3 ボウイ | — 鎮痛、尿量増加（利尿）等の作用を期待して用いられる。 |
| 4 ケイヒ | — 発汗を促して解熱を助ける作用を期待して用いられる。 |

問 30 抗ヒスタミン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 抗ヒスタミン成分は、脳内におけるヒスタミンによる刺激の発生を抑えることにより眠気を促す。
- b 小児が抗ヒスタミン成分を含む医薬品を服用した場合、大人と比べて神経過敏が生じやすい。
- c マレイン酸トリメブチンは、抗ヒスタミン成分としてかぜ薬等に配合されている。
- d 抗ヒスタミン成分は、抗コリン作用も示すため、胸焼けの症状が現れやすい。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問31 カフェインに関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 眠気防止薬における1回摂取量は200mgが上限とされている。
- b 胃液の分泌を亢進させる作用があり、副作用として、食欲不振、悪心・嘔吐が現れることがある。
- c 腎臓での水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋を弛緩させる働きがある。
- d 近年、社会環境の変化に対応すべく、カフェインの用量を抑えた小児向けの眠気防止薬が販売されている。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問32 胃腸に作用する薬に含まれる抗コリン成分であるものを1つ選びなさい。

- 1 テプレノン
- 2 塩酸パパペリン
- 3 臭化メチルオクタトロピン
- 4 塩酸ナファゾリン
- 5 塩酸セトラキサート

問33 下表の成分を含む乗物酔い防止薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

1 回量	20mL中
メクリジン塩酸塩（塩酸メクリジン）	25mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩（マレイン酸クロルフェニラミン）	2mg
ピリドキシリン塩酸塩（塩酸ピリドキシリン）	10mg
無水カフェイン	25mg

- a 塩酸メクリジンは、前庭神経の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示し、抗ヒスタミン成分としてよりも専ら抗めまい成分として使用される。
- b マレイン酸クロルフェニラミンは、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を期待して、抗ヒスタミン成分として配合されている。
- c 塩酸ピリドキシリンは、別名ビタミンB12と呼ばれ、吐き気の防止に働くことを期待して配合されている。
- d 無水カフェインは、キサンチン系成分であり、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されている。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	正

問34 下表の成分を含む鎮咳去痰薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

小児用 27mL中 (11~14才の1日量)			
ブロムヘキシン塩酸塩 (塩酸ブロムヘキシン)		3.6mg	
リゾチーム塩酸塩 (塩化リゾチーム)	18mg (力価)		
ジヒドロコデインリン酸塩 (リン酸ジヒドロコデイン)		9mg	
dl-メチルエフェドリン塩酸塩 (塩酸メチルエフェドリン)		22.5mg	
マレイン酸カルビノキサミン	3.6mg		

- a 塩酸ブロムヘキシンは、痰の切れを良くする成分として配合されている。
- b リン酸ジヒドロコデインは交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として配合されている。
- c 塩酸メチルエフェドリンは、中枢神経系に作用して咳を抑える鎮咳成分であり、モルヒネと基本構造が異なるため、非麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
- d マレイン酸カルビノキサミンは、アレルギーに起因する気道の炎症に対して、鎮咳成分や気管支拡張成分等の働きを助ける目的で配合されている。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問35 下表の成分を含む鎮咳去痰薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

1 日量	1.8g中
キキョウ末	70mg
キョウニン末	5mg
セネガ末	3mg
カンゾウ末	50mg

- a キキョウは、キキョウの茎を用いた生薬で、延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示す。
- b キョウニンは、バラ科のアズノ種子を用いた生薬で、体内に吸収された有効成分のうち代謝されていない未変化体のみが去痰作用を示す。
- c セネガは、ヒメハギ科のセネガ又はその同属植物の根を用いた生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- d カンゾウは、マメ科のカンゾウ又はその同属植物の根及び根茎で、気道粘膜からの分泌を促す等の作用も期待される。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問36 ヨウ素系殺菌消毒成分が含有された含嗽薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 ヨウ素による酸化作用により、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- 2 妊娠中に長期間に渡って大量に使用された場合には、胎児にヨウ素の過剰摂取による甲状腺機能障害を生じるおそれがある。
- 3 ヨウ素の殺菌力は酸性になると低下するため、酸性を示す殺菌消毒薬との併用には注意しなければならない。
- 4 ポビドンヨードが配合された含嗽薬では、その使用によって銀を含有する義歯等の歯科材料が変色することがある。

問37 胃の薬に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として、グアイフェネシンが配合されている場合がある。
- 2 制酸成分を主体とする胃腸薬については、アルカリ性の食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下する。
- 3 センブリ、オウレン、オウバク等の独特の味や香りを有している生薬成分が配合された健胃薬を服用する場合は、オブラートで包み服用することが適当である。
- 4 H₂ブロッカーと呼ばれる製品群とは、胃液分泌に関与する伝達物質であるヒスタミンの働きを抑える成分が配合された医薬品のことである。

問38 腸の薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ケツメイシ（マメ科エビスグサの種子）は、小腸刺激性瀉下成分として配合される。
- b 止瀉薬に配合されている収れん成分は、腸管平滑筋に直接作用し、腸管を収縮させることにより、低下した消化管運動を亢進的に働かせる作用がある。
- c クレオソートのうち、医薬品として使用されるのは木材を原料とする木クレオソートである。石炭を原料とする石炭クレオソートは発がん性のおそれがあり、医薬品としては使用できない。
- d オウバクのエキス製剤は、苦味による健胃作用よりも、ベルベリンによる止瀉作用を期待して用いられる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	誤	正

問39 一般用医薬品の適用（適用年齢の下限）に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

アスピリンは、（ a ）歳未満には適用がない。

塩酸ロペラミドは、（ b ）歳未満には適用がない。

サザピリンは、（ c ）歳未満には適用がない。

下欄

	a	b	c
1	6	6	1 1
2	6	1 5	1 5
3	1 5	6	1 1
4	1 5	1 5	1 5
5	1 5	1 5	1 1

問40 殺虫剤に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

a ジクロールボスは、アセチルコリンを分解する酵素と不可逆的に結合してその働きを阻害することにより殺虫作用を示す。誤って飲み込んでしまった場合には、神経の異常な興奮が起こり、縮瞳、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

b ピリプロキシフェンは、除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解して残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。

c フタルスリンは、幼若ホルモン（幼虫が十分成長するまでサナギになるのを抑えているホルモン）に類似した作用を有し、幼虫がサナギになるのを妨げる。

d メトキサジアゾン は、アセチルコリンを分解する酵素と可逆的に結合してその働きを阻害することにより殺虫作用を示し、ピレスロイド系殺虫成分に抵抗性を示す害虫の駆除に用いられる。

下欄

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問41 瀉下薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 脂溶性の防虫剤を誤って飲み込んだ場合には、腸管内からすみやかに体外に排除させることを目的に、ヒマシ油を使用するのがよいとされている。
- b ピコスルファートナトリウムは服用後、小腸で消化酵素によって分解され、その分解生成物が大腸を刺激し瀉下作用をもたらすと考えられている。
- c 刺激性瀉下成分が配合された瀉下薬は一般に、腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがある。
- d カルメロースナトリウムは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに糞便をやわらかくすることによる瀉下作用を目的として、配合される。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	誤	正

問42 胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれる抗コリン成分でないものを1つ選びなさい。

- 1 臭化ブチルスコポラミン
- 2 塩酸ジサイクロミン
- 3 塩酸トリメトキノール
- 4 ロートエキス
- 5 塩酸オキシフェンサイクリミン

問43 下表の成分を含む胃腸鎮痛鎮痙薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

1 日量	15錠中	
臭化メチルベナクチジウム（メチルベナクチジウム臭化物）	30mg	
乾燥水酸化アルミニウムゲル	1800mg	
ケイ酸アルミニウム	1500mg	
炭酸水素ナトリウム	1050mg	
カンゾウエキス	150mg	

- a 乾燥水酸化アルミニウムゲル、ケイ酸アルミニウム及び炭酸水素ナトリウムはすべて制酸作用を示す。
- b 臭化メチルベナクチジウムは、消化管の粘膜及び平滑筋に対する局所麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果を期待して配合されている。
- c カンゾウは、胃粘膜の炎症を和らげる効果を期待して配合されている。
- d この医薬品は作用が緩和であり、透析療法を受けている人も積極的に使用することができる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問44 浣腸薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a グリセリンは腸管への刺激が穏やかな成分であるため、便秘時以外であっても、直腸内容物の排除を目的として用いることは適当とされている。
- b 炭酸水素ナトリウムは、直腸内で徐々に分解して酸素ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- c ソルビトールは、浸透圧の差によって、腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果がある。
- d グリセリンが配合された浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告がある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問45 駆虫薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a パモ酸ピルビニウムは、蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す。
- b カイニン酸は、回虫に痙攣を起こさせる作用を示す。カイニン酸を含む生薬成分として、マクリが配合されている場合がある。
- c リン酸ピペラジンは、神経におけるアドレナリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫を麻痺させる作用を示す。
- d サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示す。消化管から吸収されたサントニンは、そのほとんどが肝臓で代謝されずに腎臓で排泄され、腎臓病の診断を受けた人では腎障害を悪化させるおそれがある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問46 強心薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ジャコウは、シカ科のジャコウジカ又はその近縁動物の雄のジャコウ腺分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- b ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧低下作用があるとされる。
- c センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒腺の分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示す。有効域が比較的狭い成分であり、センソを含む医薬品はすべて劇薬に指定されている。
- d ジンコウは、シカ科のシベリアジカ、マンシュウアカジカ等の雄の幼角を用いた生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問47 高脂血症及び高コレステロール改善薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 高脂血症とは、医療機関が測定する検査値として、①低密度リポ蛋白質が140mg/dL以上、②高密度リポ蛋白質が40mg/dL未満、③中性脂肪が150mg/dL以上の全てがあてはまる状態をいう。
- 2 血液中の低密度リポ蛋白質が多く、高密度リポ蛋白質が少ないと、コレステロールの運搬が末梢組織側に偏ることにより、心臓病や肥満等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。
- 3 リノール酸はコレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- 4 ソイステロールには、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされている。

問48 ステロイド性抗炎症成分を含む外皮用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 当該成分として、デキサメタゾン、吉草酸酢酸プレドニゾロン及びヒドロコルチゾン等がある。
- b 末梢組織の免疫機能を亢進させることにより、感染による炎症を鎮めることを期待して用いられる。
- c 一般用医薬品の場合、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎を対象とするものではない。
- d ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL 中1 mg 含有する製品では、特に長期連用を避ける必要はない。

下欄

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問49 貧血及び貧血用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 鉄分の摂取不足が生じた場合、一時的なものであれ、すぐに貧血症状が現れるため、日々の食事の内容に注意する必要がある。
- b 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがある。これは使用の中止を要する副作用等の異常ではないが、鉄製剤の服用前から便が黒い場合は貧血の原因として消化管内で出血している場合もあるため、服用前の便の状況との対比が必要である。
- c アスコルビン酸は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
- d 鉄分の吸収は、食後より、空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問50 循環器用薬に含まれるユビデカレノンに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 別名コエンザイムQ10とも呼ばれ、人体内に存在しない成分であるが、安全性が高く食品としても流通させることが可能な成分である。
- b 軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- c 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって、血液循環の改善効果を示すといわれている。
- d 小児の場合、7歳以上であれば使用することが可能である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問51 外用痔疾用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a 局所麻酔成分は、皮膚や粘膜などの局所に適用されると、その周辺の知覚神経
に作用して刺激の伝達を可逆的に遮断する作用を示す。
- b アドレナリン作動成分である塩酸メチルエフェドリンは、外用痔疾用薬には用
いられない。
- c 外用痔疾用薬には、坐剤の他、軟膏剤及び外用液剤がある。
- d ビタミンEの使用は、出血を助長するおそれがあり、外用痔疾用薬には配合し
てはいけないことになっている。

下欄

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問52 外皮用薬に含有される抗菌成分に関する次の記述について、記述と成分の正し
い組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 細菌のDNA合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- b 細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- c 細菌の蛋白質合成を阻害することにより抗菌作用を示す。

下欄

- | | a | b | c |
|---|------------|------------|------------|
| 1 | ホモスルファミン | スルフィソキサゾール | クロラムフェニコール |
| 2 | 硫酸フラジオマイシン | バシトラシン | スルファジアジン |
| 3 | ホモスルファミン | バシトラシン | スルファジアジン |
| 4 | ホモスルファミン | バシトラシン | クロラムフェニコール |
| 5 | 硫酸フラジオマイシン | スルフィソキサゾール | スルファジアジン |

問53 下表の成分を含む鼻炎用内服薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

1回量	2錠中
塩酸プソイドエフェドリン（プソイドエフェドリン塩酸塩）	60mg
マレイン酸カルビノキサミン（カルビノキサミンマレイン酸塩）	4mg
ベラドンナ総アルカロイド	0.2mg
無水カフェイン	50mg

- a アレルギー性鼻炎による鼻みず、鼻粘膜の腫れに効果がある。
- b マレイン酸カルビノキサミンは、抗ヒスタミン成分として用いられる。
- c ベラドンナ総アルカロイドは、炎症を生じた組織を修復する作用を示すため、抗炎症成分として用いられる。
- d 塩酸セレギリンで治療中の患者が使用した場合、塩酸プソイドエフェドリンの代謝が促進するため、使用を避ける必要がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問54 鼻炎用点鼻薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬は急性鼻炎、慢性鼻炎及びアレルギー性鼻炎を対
応範囲としている。
- b 抗ヒスタミン成分は、肥満細胞から遊離したヒスタミンの分解を抑えることに
より、くしゃみや鼻汁等の症状を緩和する。
- c 塩酸テトラヒドロゾリンを含むものは、過度に使用されると、鼻づまりがひど
くなりやすい。
- d 鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑えることを目的として、リドカイン等の局所
麻酔成分が配合されている場合がある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問55 眼科用薬に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 一般用医薬品の点眼薬は、その主たる配合成分から、人工涙液、抗菌性点眼薬、
緑内障用点眼薬及びアレルギー用点眼薬に分けられる。
- 2 網膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として、硝
酸ナファゾリンが配合されている場合がある。
- 3 メチル硫酸ネオスチグミンは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、
毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する。
- 4 クロモグリク酸ナトリウムは抗ヒスタミン成分と異なり、アレルギー性でない
結膜炎に対しても有効である。

問56 妊娠検査薬に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 検体としては、尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモンが検出されやすい早朝尿（起床直後の尿）が向いているが、尿が濃すぎると、かえって正確な結果が得られないこともある。
- 2 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日を過ぎて4週目以降に検査すべきとされている。
- 3 尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモンの検出反応は、ヒト絨毛性性腺刺激ホルモンと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、高濃度の蛋白尿や糖尿の場合であっても検査結果に影響はでないといわれている。
- 4 絨毛細胞が腫瘍化している場合には、常に、検査結果は陰性になる。

問57 婦人用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 温清飲は、女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤であり、カンゾウを含む。
- b 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって、胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
- c ビャクジュツは、鎮静、鎮痛の他、女性の滞っている月経を促す作用を期待して用いられる。
- d 女性ホルモン成分の長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌及び脳卒中の発生確率が高まる可能性がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	正

問58 歯槽膿漏薬の成分とその配合目的の正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

(成分)	(配合目的)
a ヒノキチオール	— 抗炎症
b カルバゾクロム	— 抗菌
c チモール	— 殺菌消毒
d フィトナジオン	— 組織修復

下欄

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問59 公衆衛生用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a エタノールは、微生物の蛋白質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対する消毒作用を示すが、ウイルスに対する不活性化効果はない。
- b グルコン酸クロルヘキシジンは、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒効果を示すが、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- c サラシ粉は、塩素系殺菌消毒成分であり、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対して殺菌消毒作用を示す。対象物の洗浄と殺菌消毒を一度に行いたい場合には、酸性の洗剤・洗浄剤を同時に使うように勧めるべきである。
- d ジクロルイソシアヌル酸ナトリウムは、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられる。

下欄

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問60 非ステロイド性抗炎症成分を含む外皮用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ケトプロフェンが配合された外皮用薬の使用後又は使用後しばらくしてから紫外線による重篤な光線過敏症が現れることがある。
- b ピロキシカムは最も重篤な副作用が起りやすい非ステロイド性抗炎症成分として知られている。
- c イブプロフェンピコノールはイブプロフェンの誘導体であり、外用での鎮痛作用を期待して用いられる代表的な医薬品成分である。
- d 医療用の高脂血症用薬の有効成分であるフェノフィブラートでアレルギー性の発疹を起こしたことがある人は、ケトプロフェンの使用を避けることとされている。

下欄

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)